

日本語学習者の動機付け研究

- 韓国人とインドネシア人の日本語学習者を対象として -

ニ・ワヤン・プリリヤシクタ*

坂本正**

(e-mail : zinta.zen@gmail.com, tadsaka@nanzan-u.ac.jp)

<目次>

- | | |
|---------|--------------|
| 1. 研究動機 | 4. 調査結果と考察 |
| 2. 先行研究 | 5. まとめと今後の課題 |
| 3. 調査 | |

キーワード: 韓国人日本語学習者(Korean Learners)、インドネシア人日本語学習者(Indonesian Learners)、内発的動機付け(Intrinsic Motivation)、外発的動機付け(Extrinsic Motivation)、学習歴(Length of Learning Experience)

1. 研究動機

外国語教育は、たとえ適切なカリキュラムや優れた教育が施されたとしても、長期間維持可能な学習動機付けがなければ目標達成は保証されない (Dörnyei, 1998: 117) という主張がある。日本語教育も例外ではない。外国語学習における学習者の動機付けが注目され始め、これまで過去 50 年の間に多くの動機付け研究がなされてきた。

日本企業で働き高収入を得たいとか、教師や親からの処罰を免れるための手段として日本語の学習を行う外発的動機付け (extrinsic motivation) と日本

* 南山大学 大学院生 日本語教育学。

** 南山大学 教授 日本語教育学・第二言語習得論。

語の学習自体が目的でそれを行っていることに喜びや満足を感じる内発的動機付け (intrinsic motivation) を調べることで、日本語学習者がどのような動機付けを持って、日本語学習に取り組んでいるかを調査、分析する。韓国の大学で日本語を学んでいる韓国人日本語学習者とインドネシアの大学で日本語を学んでいるインドネシア人日本語学習者の動機付けを調査、分析し、その共通点、相違点を明らかにしたい。本稿は、韓国人日本語学習者とインドネシア人日本語学習者において、

- 1) 日本語の学習歴が動機付けに影響を与えているか、
- 2) 韓国人とインドネシア人の日本語学習者それぞれにおいて、内発的動機付けと外発的動機付けに差があるか、
- 3) 内発的動機付けと外発的動機付けそれぞれにおいて、韓国人とインドネシア人の日本語学習者の間に差が見られるか、
- 4) 学習歴が長くなるにつれて、動機付けの強さは変化するのか、

を調査、分析し、韓国人とインドネシア人の日本語学習者の動機付けに関する実態の一部を明らかにし、日本語教育に学習者の心理的な側面から貢献していくことを目的とする。

2. 先行研究

外国語学習における動機付けの定義は研究者によって異なり、様々な定義がある。Gardner & Lambert (1972)は、第二言語における学習動機は、その言語を話す社会に対する態度 (attitude) と学習課題に対する志向 (orientation) で決まり、統合的志向 (integrative orientation) と道具的志向 (instrumental orientation) という概念を導入している。前者は目標言語話者やその文化に関心があり、言語をもっと知り、その中に溶け込みたいから目標言語を学ぶという志向性のことで、後者はよりよい仕事や待遇を得るためにその言語を学ぶという実用的な志向性のことである。更に、Gardner (1985:50) は4つの視点、1) 目標、2) 目標を達成するための努力、3) 目標を達成する意欲、そして、4) 目標に対する肯定的な態度から動機付けを捉え直している。

また、Deci (1975)、Deci & Ryan (1985)、そして、Deci 他 (1991)は動機付けを

教育心理学の視点から二つのカテゴリー、外発的動機付けと内発的動機付けに分類している。前者は報酬を得ようとしたり不利益な事態を避けようとする行動したりする動機付けのことで、後者はそれを行うこと自体が楽しく、自分の喜びとなり、満足感も得られるから行うという動機付けのことをいう。Deci & Ryan (1985)、Ryan & Deci (2000, 2002)は、この外発的動機付けと内発的動機付けを中心概念として置く「自己決定理論」(Self-Determination Theory)を提唱している。この理論では、動機付けは内発的か外発的かの二項対立的なものではなく、外発的に動機付けられている行動であっても、それを個人がどの程度内在化しているかによって、管理的なものから自己決定的なものまでの連続体であると捉えている。つまり、外的な自己決定的ではない調整も内在化と統合の過程を通じて自己決定的な調整になると考えられている(藤原 2012:28)。

非動機づけ		外発的動機づけ			内発的動機づけ	
調整なし	外的調整	取り入的調整	同一化的調整	統合的調整	内発的調整	
自己決定的でない		やや自己決定的	ほぼ自己決定的		とても自己決定的	
やりたいと思わない	親に言われるから仕方なく・単位のため	友人にばかりにされるのが嫌だから	将来のために必要だから	違和感なくやりたいと思うから	おもしろい・興味がある・好きだから	

菊池 (2015:13) 図 2.2より引用

さらに、Dörnyei (2005, 2009)は、「第二言語を動機付ける自己システム」(L2 Motivational Self System)を唱え、3つの構成要素から成り立っていると述べている。その3つとは、

- 1) 第二言語における将来になりたい自分、理想自己 (Ideal self)
- 2) 第二言語におけるなるべき自分、義務自己 (Ought-to self)
- 3) 第二言語学習経験 (L2 Learning Experience)

で、この理論によると動機付けは「今の自分」と「なりたい自分」「なるべき自分」の不一致を埋めようとするところに発生するということになる。

これらの先行研究で用いられた調査項目から、特に、多くの研究で言及されている学習者の内発的動機付けと外発的動機付けに焦点を置き、それに、日本語学習に関係した

項目を加え、計 52 項目のアンケート調査文を作成し、日本語学習歴がどのように学習者の内発的動機付けと外発的動機付けに関係しているのかを調べるべく本調査を実施した。

3. 調査

3.1. 調査方法

Deci & Ryan (1985)、Deci 他 (1991)の分類を用い、日本語学習者の内発的動機付けと外発的動機付けを creative survey という WEB サイトを使用し、調査を行った。内発的動機付けと外発的動機付けに基づいた質問 52 項目 (逆質問項目¹⁾を除き 44 項目) を設け、「非常にそう思う」「そう思う」「まあまあそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」「全くそう思わない」の 6 件法を用い、当てはまる箇所にチェックを入れてもらった (アンケートに用いた項目は参考文献のあとに資料として掲載)。それぞれ、韓国人日本語学習者には韓国語で、インドネシア人日本語学習者にはインドネシア語で設問を作成した (以下に韓国語の設問の例を示す。「漢字の勉強は楽しいです」という意味である)。

〈表 1〉 creative survey の調査画面

1. 한자 공부 재미있다

	6. 매우 그렇게 생각한다	5. 그렇게 생각한다	4. 그저 그렇게 생각한다	3. 그다지 그렇게 생각하지 않는다	2. 그렇게 생각하지 않는다	1. 전혀 그렇게 생각하지 않는다
척도	●	●	●	●	●	●

韓国でのアンケートの実施期間は、2015年2月14日から2015年4月15日までの二ヶ月で、インドネシアでの実施期間は、同様の方法で2015年1月15日から2015年1月30日までの2週間である。

1) 逆質問項目は、調査協力者がちゃんと考えて、答えているかどうかをチェックする質問項目である。

3.2. 調査対象者

韓国の4大学(南ソウル大学校、檀国大学校、驪州大学校、東西大学校)で外国語として日本語を選択し、学習している韓国人日本語学習者68名と、インドネシアの大学(ウダヤナ大学、パジャジャラン大学、ガジャマダ大学、インドネシア大学、インドネシア教育大学)で日本語を専攻しているインドネシア人日本語学習者99人である。

3.3. 分析方法

WEBサイトで得られたデータを基にして、分散分析²⁾を行い、分析する。

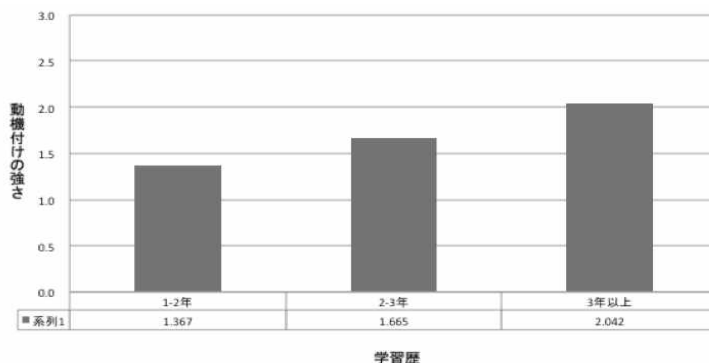
4. 調査結果と考察

ここでは、4つの研究課題、1)日本語の学習歴が動機付けに影響を与えているか、2)韓国人とインドネシア人の日本語学習者それぞれにおいて、内発的動機付けと外発的動機付けに差があるか、3)内発的動機付けと外発的動機付けそれぞれにおいて、韓国人とインドネシア人の日本語学習者の間に差が見られるか、4)学習歴が長くなるにつれて、動機付けの強さは変化するのか、それぞれについて結果を報告し、考察を行う。

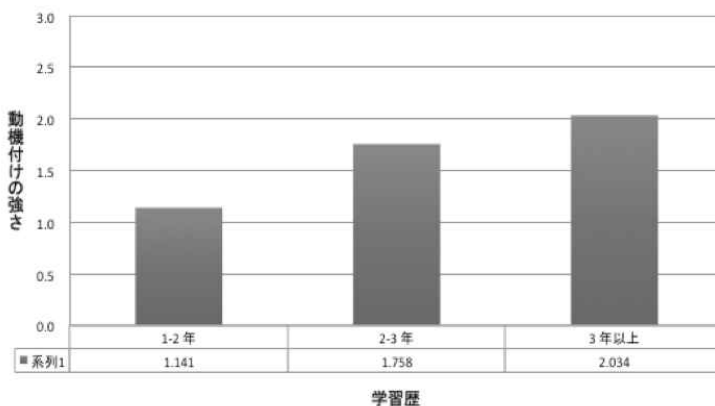
4.1. 日本語の学習歴と動機付けの強さの関係

インドネシア人日本語学習者と韓国人日本語学習者の学習歴と動機付けの強さの関係を示した図が図1と図2である。インドネシア人日本語学習者は1年未満の学習者がいないので、1年以上の学習歴の学習者を比較することにする。インドネシア人日本語学習者は学習歴が1-2年(12名)、2-3年(28名)、3年以上(59名)の計99名で、韓国人日本語学習者は学習歴が1-2年(10名)、2-3年(16名)、3年以上(36名)の計62名である。

2) 分散分析は、3群以上の平均値の違いを検定する統計手法である。



〈図 1〉 インドネシア人学習者における学習歴と動機付けの強さの関係



〈図 2〉 韓国人学習者における学習歴と動機付けの強さの関係

図 1、図 2 からインドネシア人日本語学習者も韓国人日本語学習者も学習歴が長くなると動機付けも強くなっていることがわかる。

4.2. 学習歴が動機付けの強さに与える影響

4.2.1. インドネシア人日本語学習者の場合

日本語学習者の日本語学習歴がどの程度動機づけに影響を及ぼしているのかを統計的に明らかにするために、学習歴を要因として、3つの学習者群（学習歴が1 - 2年の群、2 - 3年の群、3年以上の群）を設け、1要因3水準³⁾の分散分析を

行ったところ、以下の表2のような結果を得た。

〈表2〉インドネシア人日本語学習者の1要因分散分析表⁴⁾

source	SS	df	MS	F	p
A: 学習歴	5.9286676	2	2.9643338	9.116	0.0002 ****
error [WC]	31.2161904	96	0.3251687		
Total	37.1448580	98			

+ p<.10, * p<.05, ** p<.01, *** p<.005, **** p<.001

表2から、学習歴の主効果⁵⁾は $F(2,99)=9.116$ 、 $p=0.0002$ で0.001%水準で統計的に有意⁶⁾であることがわかった。効果量⁷⁾ $\eta^2=0.16$ となり、効果量も0.14より大きく、「大」であることがわかった。これから、インドネシア人日本語学習者に関して、学習歴は動機付けの強さに大きな影響を与えていることが明らかになった。また、学習歴の主効果が有意となったので、多重比較⁸⁾を行ったところ、表3のような結果を得、学習歴が3年以上の群と1-2年の群の間、並びに、3年以上の群と2-3年の群の間に統計的に有意な差が見られたが、1-2年の群と2-3年の群の間には差が見られなかった。

〈表3〉学習歴の主効果における多重比較 (インドネシア人学習者)

pair	r	nominal level	t	p	sig.
3 - 1	3	0.0166667	3.736	0.0003179	s.
3 - 2	2	0.0333333	2.883	0.0048676	s.
2 - 1	2	0.0333333	1.511	0.1339965	n. s.

MSe=0.325169, df=96, significance level=0.050000

- 3) 要因は学習歴で、学習歴の違いで3つの群の平均値の比較をする。
- 4) SS=偏差平方和 (標本のばらつきの大きさを表す一つの指標)、df=自由度 (自由に变化させることのできるものの)、MS=平均平方 (母集団分散の推定値を表し、対応する平方和を自由度で割ったもの)、F=F値 (要因変動の平均平方和を誤差変動の平均平方和で割った値)、p=P値 (帰無仮説が正しいという条件の下で、検定統計量の値より大きな値が得られる確率)
- 5) 主効果は要因 (この場合は、学習歴) の影響の程度を表す。
- 6) 統計的な計算の結果、実質的な差が出ていることを表す。
- 7) 効果量は要因がどのくらい結果に実質的な影響を与えているかを表す。
- 8) 多重比較は、分散分析の結果、主効果が有意なときに、どの群とどの群の間に有意な差があるかを調べる統計手法である。

4.2.2. 韓国人日本語学習者の場合

学習歴を要因として 1 要因 3 水準の分散分析を行ったところ、以下の表 4 のような分散分析表を得た。

〈表 4〉韓国人日本語学習者の 1 要因分散分析表

source	SS	df	MS	F	p
A: 学習歴	6.3154184	2	3.1577092	7.814	0.0010 ****
error [WC]	23.8436206	59	0.4041292		
Total	30.1590390	61			

+ p<.10, * p<.05, ** p<.01, *** p<.005, **** p<.001

表 4 から、学習歴の主効果は $F(2,62)=7.814$ 、 $p=0.0010$ で 0.001% 水準で統計的に有意であることがわかる。効果量 $\eta^2=0.21$ となり、効果量も 0.14 より大きいので「大」であることがわかった。これから、韓国人日本語学習者に関しても、学習歴は動機付けの強さに大きな影響を与えていることが明らかになった。また、学習歴の主効果が有意となったので、同様に多重比較を行ったところ、表 5 のような結果を得、学習歴が 3 年以上の群と 1 - 2 年の群の間、並びに、2 - 3 年の群と 1 - 2 年の群の間に統計的に有意な差が見られたが、3 年以上の群と 2 - 3 年の群の間には差が見られなかった。インドネシア人日本語学習者の場合は 3 年以上になると動機付けが急激に強まるが、韓国人日本語学習者の場合は 2 - 3 年経つと動機付けが急激に強まるという違いが見られた。

〈表 5〉学習歴の主効果における多重比較（韓国人学習者）

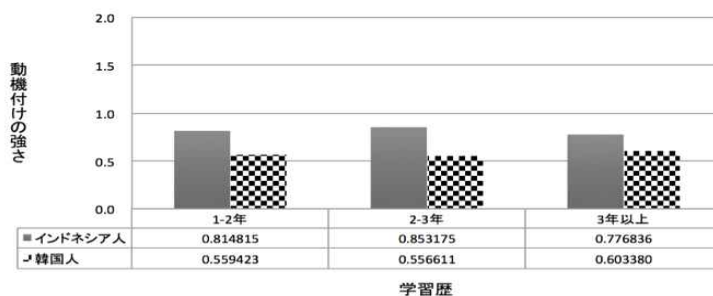
pair	r	nominal level	t	p	sig.
3 - 1	3	0.0166667	3.928	0.0002270	s.
3 - 2	2	0.0333333	1.446	0.1535943	n. s.
2 - 1	2	0.0333333	2.406	0.0192933	s.

MSe=0.404129, df=59, significance level=0.050000

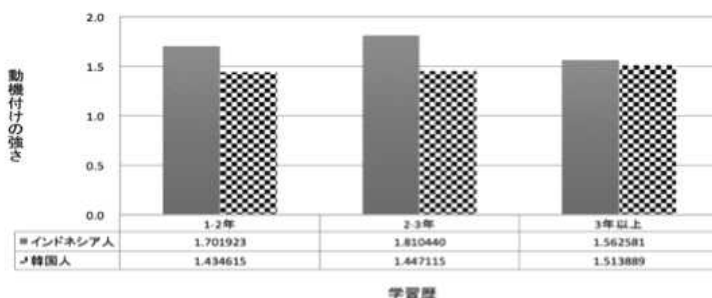
4.3. 内発的・外発的動機付けと学習歴の関係

ここでは、動機付けを内発的動機付けと外発的動機付けに分けて、学習歴との関係を

調べてみる。インドネシア人日本語学習者と韓国人日本語学習者の学習歴と2種類の動機付け（内発的動機付けと外発的動機付け）の強さの関係を図で示したものが、それぞれ図3と図4である。



〈図3〉 内発的動機付けと学習歴



〈図4〉 外発的動機付けと学習歴

図3と図4を比べると、インドネシア人日本語学習者も韓国人日本語学習者もどちらにおいても内発的動機付けより外発的動機付けの方が学習歴にかかわらず動機付けが強いことがわかった。全体的な傾向として、図3と図4から学習歴にかかわらず、インドネシア人日本語学習者のほうが韓国人日本語学習者よりも動機付けが少し強いように見える。

図3と図4からでは、目で見ただけ的印象なので、インドネシア人日本語学習者と韓国人日本語学習者の間に統計的に有意な差があるかどうかを参加者間 t 検定⁹⁾（両側）によって調べてみる。

〈表 6〉 学習歴別の両学習者群の内発的動機付けの差

	分散	p値	有意差	効果量
1-2年	同質	0.033	*	0.4
2-3年	不等(ウェルチ法)	0.0004	***	0.52
3年以上	不等(ウェルチ法)	0.0281	**	0.23

* $p < .05$ 、** $p < .01$ 、*** $p < .005$

上の表より、どの学習歴においても有意差があり、内発的動機付けに関しては、インドネシア人日本語学習者のほうが韓国人日本語学習者よりも動機付けの強さが高いことがわかる。効果量も1-2年では「中」、2-3年では「大」、3年以上では「小」という結果になった。

〈表 7〉 学習歴別の両学習者群の外発的動機付けの差

	分散	p値	有意差	効果量
1-2年	同質	0.3539	n.s.	0.21
2-3年	同質	0.0335	*	0.35
3年以上	同質	0.7464	n.s.	0.03

* $p < .05$ 、** $p < .01$ 、*** $p < .005$

表 7 より、外発的動機付けに関しては、2-3年の学習歴群に関しては、5%水準で有意差が出て、インドネシア人日本語学習者のほうが韓国人日本語学習者よりも動機付けの強さが高いことがわかる。しかし、1-2年と3年以上の学習歴群に関しては、n.s.(not significant)で両群に有意な差があるとは言えないということがわかった。効果量は、2-3年が「中」、1-2年が「小」、3年以上は「ほとんどなし」という結果になった。

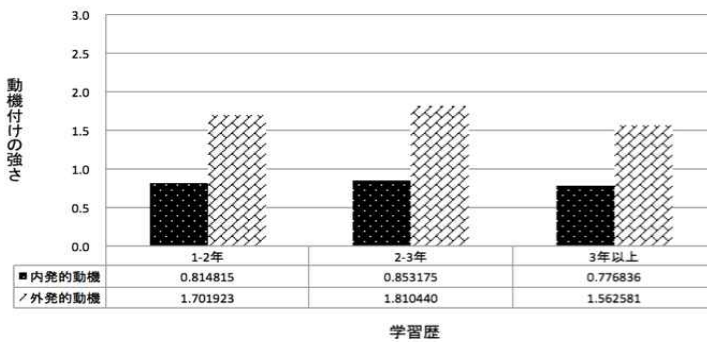
4.4. 種類の動機付けと学習歴の関係

ここでは、インドネシア人日本語学習者、韓国人日本語学習者それぞれにおいて、学習歴と2種類の動機付けがどのような関係になっているか調べてみる。

9) t 検定は2群の平均値に統計的に差があるかどうかを調べる統計手法である。

4.4.1 インドネシア人日本語学習者の場合

図5はインドネシア人日本語学習者の学習歴別の2種類の動機付けの強さを視覚的に示したものである。この図5からインドネシア人学習者の場合は、(1)どの学習歴群においても外発的動機付けのほうが内発的動機付けより強いこと、(2)内発的動機付けはほとんど学習歴にかかわらず一定で安定しているが、外発的動機付けに関しては、安定して高いが、学習歴が3年以上になると、やや動機付けが落ちるように見える。



〈図5〉インドネシア人学習者における学習歴と2種類の動機付け

図5からインドネシア人日本語学習者の場合は、外発的動機付けのほうが内発的動機付けよりも高いようだが、統計的に有意な差があるかどうかを参加者内 *t* 検定 (両側) によって調べてみる。その結果、以下の表8から、インドネシア人日本語学習者の場合は、学習歴にかかわらず、外発的動機付けのほうが内発的動機付けよりも0.1%水準で有意な差があることが明らかになった。効果量もどの学習歴群においても「大」という結果になった。

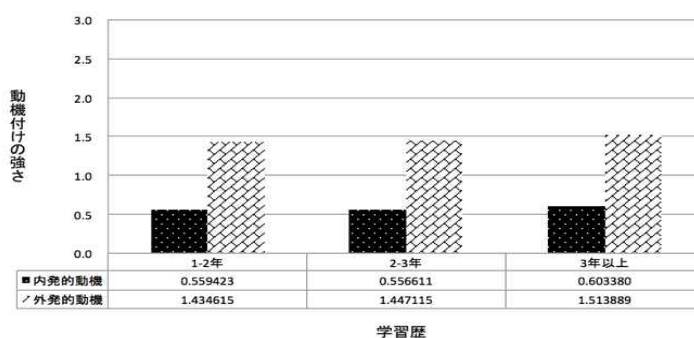
〈表8〉インドネシア人日本語学習者の学習歴別の内発的・外発的動機付けの差

	<i>p</i> 値	有意差	効果量
1-2年	0	***	0.92
2-3年	0	***	0.97
3年以上	0	***	0.88

p*<.05、*p*<.01、****p*<.005

4.4.2. 韓国人日本語学習者の場合

図 6 は韓国人日本語学習者の学習歴別の 2 種類の動機付けの強さを視覚的に示したものである。この図 6 から韓国人日本語学習者の場合は、(1) どの学習歴群においても外発的動機付けのほうが内発的動機付けより高いこと、(2) 内発的動機付けも外発的動機付けもほとんど学習歴にかかわらず一定で安定していることがわかる。



〈図 6〉 韓国人学習者における学習歴と 2 種類の動機付け

図 6 からでは、韓国人日本語学習者の場合は、外発的動機付けのほうが内発的動機付けよりも高いように見えるが、統計的に有意な差があるかどうかを参加者内 t 検定 (両側) によって調べてみる。その結果、以下の表 9 から、韓国人日本語学習者の場合も、学習歴にかかわらず、外発的動機付けのほうが内発的動機付けよりも 0.1% 水準で有意な差があることが明らかになった。効果量もどの学習歴においても「大」という結果になった。

〈表 9〉 韓国人日本語学習者の学習歴別の内発的・外発的動機付けの差

	p 値	有意差	効果量
1-2年	0.0007	***	0.86
2-3年	0	***	0.90
3年以上	0	***	0.89

* $p < .05$ 、** $p < .01$ 、*** $p < .005$

以上から、インドネシア人日本語学習者も韓国人日本語学習者も内発的動機付けと外発的動機付けでは、学習歴にかかわらず外発的動機付けのほうが高いという点で共通していることがわかった。

4.5. 学習歴と動機付けの変化

表 10 ならびに表 11 は、学習歴 1 - 2 年の学習者と 3 年以上の学習者を比較して、インドネシア人日本語学習者と韓国人日本語学習者における内発的動機付けの変化のある項目と外発的動機付けの変化のある項目をそれぞれ記述したものである。ここにはない項目は変化が見られなかった項目になるが、本論文は動機付けの変化を分析しているため、ここではこれ以上言及しないこととする。各項目で動機づけの強さの平均が 0 ~ 1、1 ~ 2、2 ~ 3 になった項目をそれぞれ、Low、Middle、High とみなして、分類し、まとめたのが表 10 と表 11 である。

〈表 10〉両学習者群における内発的動機付けの変化のある項目

学習者 動機付け	インドネシア人日本語学習者	韓国人日本語学習者
Middle - High		1. 日本語の会話の練習は楽しい 2. 他の学生よりもっと上手になりたい
Low - Middle	1. 日本語の文法の勉強は楽しい 2. 毎日日本語を勉強しても飽きない	1. 日本語の文法の勉強は楽しい 2. 日本語の聞き取りの練習は楽しい 3. 授業に積極的に参加することができて満足している 4. 日本語の授業では達成感を味わうことができる 5. 日本語を勉強して難しいことがあってもチャレンジして練習する
High - Middle		
Middle - Low	1. 漢字の勉強は楽しい 2. 授業外で日本語を使うのが楽しい	

内発的動機付けに関して、インドネシア人日本語学習者も韓国人日本語学習者も共通して言えることは、学習歴が長くなると日本語の勉強が楽しく感じられることである。一方、動機付けの程度が下がった項目があるのはインドネシア人日本語学習者のグループだけである。それは「漢字の勉強は楽しい」と「授業外で日本語を使うのが楽しい」という項目であった。非漢字圏であり、漢字の学習に困難さを感じるのは容易に理解できる。また、インドネシアに住んでいる、または、訪問する日本人が比較的少なく、授業外で日本

語を使う機会も限られていることから、「授業外で日本語を使うのが楽しい」という項目が下がっているものと思われる。

〈表 11〉 両学習者群における外発的動機付けの変化のある項目

学習者 動機付け	インドネシア人日本語学習者	韓国人日本語学習者
Middle - High		1. 日本語で日本の映画、ドラマを見たい
Low-Middle	1. 学習環境（先生の教え方、クラスメートとの関係、学校の施設など）が良いので日本語の勉強が好きだ	1. 日本語（のイメージ）が好きだ 2. 日本語の文法に興味があって勉強したい 3. 日本語の表現に興味があって勉強したい 4. 卒業のため、日本語の単位を取りたい 5. 日本の企業で働きたい
High - Middle	1. 日本語でアニメなどを見たい 2. 日本の大学・大学院に留学したい 3. 日本の企業で働きたい	1. 日本の文学作品（小説、詩など）、新聞などを読みたい
Middle - Low		

外発的動機付けに関しては、表 11 ではインドネシア人日本語学習者と韓国人日本語学習者の間に目立った共通点は見られない。相違点としては、韓国人日本語学習者は長く日本語を勉強すると、「日本企業で働きたい」という動機付けが強くなる（Low から Middle）が、インドネシア人日本語学習者の場合は「日本の企業で働きたい」という動機付けが最初は強いが 3 年以上学習するとやや弱くなる（High から Middle）ことがわかった。どちらの学習者も 3 年以上学習歴があると、中程度の動機付けに落ち着くようである。さらに、韓国人日本語学習者は学習歴が長くなると日本語の文法や表現または日本語に対する興味と「日本語で日本の映画、ドラマを見たい」という関心が高まる。一方、インドネシア人日本語学習者は「日本語」そのものよりも「学習環境」に対す動機付けが強くなる。興味深いことに、インドネシア人日本語学習者の場合、「日本語でアニメなどを見たい」という動機付けが下がっており（High から Middle）、アニメが日本語学習の入り口では非常に高い動機付けになるが、学習歴が長くなるにつれて徐々に下がっていくことが明らかになった。

5. まとめと今後の課題

本研究の結果、一般化はできないが、調査協力してくれた大学の日本語学習者に関して言えば、1) インドネシア人日本語学習者も韓国人日本語学習者も学習歴は動機付けの強さに大きな影響を与えている、2) 内発的動機付けに関してはすべての学習歴群にインドネシア人日本語学習者と韓国人日本語学習者の間に差が見られた。一方、外発的動機付けに関しては学習歴が2-3年群に関してのみ差が見られたが、1-2年群と3年以上群では差が見られなかった、3) 両学習者群において内発的動機付けと外発的動機付けの間の動機付けの強さに差が見られる、4) 学習歴が長くなるにつれて、動機付けの強さが変化すると変化しないものがあることが明らかになった。

しかし、1) 今回は横断的なアンケート調査を行ったが、同一学習者の動機付けの変化を見るには、縦断的なアンケート調査を行う必要があること、2) 動機付けの変化の原因を明らかにするには、調査期間中に何が起こったかを日記などを書いてもらい、質的に分析する必要があること、3) なるべく各群、バランスよく被験者を集める必要があることなどが今後改善していく課題として残っている。

日本語教育研究においては、これまで日本語そのものの仕組みを解明する研究や、日本語と学習者の母語とを比較対照する研究、そして、日本語教育を効率的に効果的に行うにはどういった教え方がいいかという研究が多かったが、本研究のように、学習者の日本語学習に対する動機づけといった心理的な面を探る研究もこれから活発に行われる必要があろう。どうしたら、学習者の動機付けを維持・向上できるか、日本語を教える者にとっては大きな課題であり、今後の研究が待たれる。

【参考文献】

- 菊地恵太 (2015) 『英語学習動機の減退要因の探求－日本人学習者の調査を中心に』ひつじ書房
- 藤原三枝子 (2012) 「大学における基礎ドイツ語学習者の動機と動機づけ－学習動機に関する横断的調査と自己決定理論に基づく動づけの縦断的調査－」南山大学大学院人間文化研究科未公開博士論文
- Deci, E.L. (1975) *Intrinsic motivation*. New York: Plenum.
- Deci, L.E. & Ryan, R. M. (1985) *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior*. New York: Plenum Press.

- Deci, L.E., Vallerant, J.R., Pelltier, G.L., & Ryan, R. M. (1991) Motivation and education: The self-determination perspective, *Educational Psychologist* 26, 325-346.
- Dörnyei, Z. (1998) Motivation in second and foreign language learning, *Language Teaching* 31(3), 117-135.
- Dörnyei, Z. (2005) *The psychology of the language learner: Individual differences in second language acquisition*, Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.
- Dörnyei, Z. (2009) The L2 motivational self system, in Z. Dörnyei and E. Ushioda (eds.), *Motivation, language identity and the 12 self* (pp. 9-42), Clevedon: Multilingual Matters.
- Gardner, R.C. & Lambert, W.E. (1972) *Attitudes and motivation in second language learning*. Rowley, Mass.: Newbury House.
- Gardner, R.C. (1985) *Social psychology and second language learning: The role of attitudes and motivation*. London: Edward Arnold Ltd.
- Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2000) Self-determination theory and the facilitation of intrinsic motivation, social development, and well-being. *American Psychologist*, 55, 68-78.
- Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2002) Overview of self-determination theory: An organismic dialectical perspective. In E. L. Deci, & R. M. Ryan (eds.), *Handbook of self-determination research* (pp. 3-33). Rochester, NY: University of Rochester Press.

논문 투고 일자: 2016.02.27. 논문 심사 일자: 2016.04.18. 게재 확정 일자: 2016.04.28.

アンケートの項目

内発的動機付け	外発的動機付け
1. 漢字の勉強が楽しい	24. 日本の文化(料理、着物、茶道、柔道、空手など)に興味がある
2. 日本語の文法の勉強は楽しい	25. 日本語で日本の映画、ドラマを見たい
3. 日本語の会話の練習は楽しい	26. 日本語(のイメージ)が好きだ
4. 日本語の聞き取りの練習は楽しい	27. 日本の歴史や歴史的建造物に興味がある
5. 日本語の授業で習ったことをできるだけ積極的に使いたい	28. 日本の最先端の技術に関心がある
6. 授業に積極的に参加することができて満足している	29. 日本語でアニメなどを見たい
7. 日本語の授業では達成感を味わうことができる	30. 日本の文学作品(小説、詩など)、新聞などを読みたい
8. 毎日日本語を勉強しても飽きない	31. 日本の漫画を日本語で読みたい
9. 勉強すればするほど知りたいことが増えて楽しい	32. 日本人の友達を作りたい(付き合いたい)
10. 日本語を勉強して難しいことがあってもチャレンジして練習する	33. 日本人と日本語で会話がしたい
11. 知らないことばがあったら自分で調べたり先生に聞いたりする	34. 日本人の友達とメールでやりとりをしたい
12. 日本語の授業が終わったらまた授業に来て勉強したいと思う	35. 日本語の漢字に興味があって勉強したい
13. 授業外で日本語を使うのが楽しい	36. 日本語の文法に興味があって勉強したい
14. 宿題は面倒だと思わず宿題があるから家で復習できるし、チャレンジも出来る	37. 日本語の表現に興味があって勉強したい
15. 他の学生よりもっと上手になりたい	38. 日本の歌を歌いたい(日本の歌の歌詞の意味が分かるようになりたい)
16. 日本語学習する時いつも一生懸命している	39. 日本語の響きはやさしいと思う
17. 日本語の授業は私にとって大切ではないから、つまらない	40. 日本語が出来たら将来いい仕事に就職できる
18. 日本語の宿題、テスト、練習などには関心がない(R)	41. 卒業のため、日本語の単位を取りたい
19. 授業で上手に練習したり、積極的に参加したりすることが出来るかどうか心配・不安な気持ちがいっぱいだ(R)	42. 日本の大学・大学院に留学したい
20. 難しいことがあったらすぐに諦める	43. 日本語の通訳者・翻訳者になりたい
21. 日本語をがんばって勉強しても上手くなれない(R)	44. 日本の企業で働きたい
22. 日本語が上手になるためにどうやって勉強すればいいか分からなくて、勉強も大変だ(R)	45. 今学期の終わりまでに自分の目標(良い成績、日本語能力試験に合格できることなど)を達成したい
23. テストや練習の時、自分は何もできないと思う(R)	46. 学習環境(先生の教え方、クラスメートとの関係、学校の施設など)が良いので日本語学習が好きだ
	47. 日本語を勉強していない家族や友達に日本語を使うのを見せたらカッコいいと思う
	48. クラスメートたちが頑張っているから自分も頑張らないといけないと思う
	49. 先生や親に怒られたくないから、日本語を頑張って勉強する
	50. 日本語で会話する時に間違いがあると、恥ずかしくて話せなくなり、勉強もがんばらなくなる(R)

	<p>51. 日本に留学することは難しいから、がんばって日本語を勉強しても必ずしも日本に留学できるとは限らない。だから、日本語の勉強もがんばれない (R)</p> <p>52. 英語以外の外国語を勉強しておかないと大学生としては恥ずかしいと思う (R)</p>
--	--

<要旨>

日本語学習者の動機付け研究

韓国人とインドネシア人の日本語学習者を対象として

ニ・ワヤン・プリリヤシタ ・ 坂本正

本研究は、インドネシア人と韓国人の日本語学習者における内発的動機付けと外発的動機付けに関する研究である。その結果、両学習者群において学習歴は動機付けの強さに大きな影響を与えていること、内発的動機付けに関しては、両学習者間に差があること、また両学習者群において内発的動機付けと外発的動機付けの間の動機付けの強さの差が見られること、学習歴が長くなるにつれて動機付けの強さが変化するものと変化しないものがあることが明らかになった。

Japanese Language Learning Motivation

A Comparison of Korean and Indonesian Learners

Ni Wayan Prilyasinta ・ Tadashi Sakamoto

This paper explores the different motivations of Korean and Indonesian learners of Japanese. The results show that; 1) the length of learning significantly affects students' motivation in both groups; 2) there is significant difference in intrinsic motivation across the two groups; 3) there is significant difference between the two groups with regard to intrinsic and extrinsic motivation; 4) some dimensions of motivation change as learners continue to study Japanese while others do not.